

日本財団の補助金を活用したアートクルーズ SETOUCHI(瀬戸内)等実施支援事業

事業報告書

瀬戸内海の日アート・体験プログラム実行委員会

目次

表紙	1
目次	2
ア・実行委員会の運営体制	3
イ・実行委員会の目的	4
ウ・実行委員会の目標	5
エ・事業内容	5～8

ア・実行委員会の運営体制

□組織構成

一般社団法人中国旅客船協会 一般社団法人四国旅客船協会 一般社団法人日本旅行業協会 せとうち観光推進機構(DMO) 7県連合(兵庫・岡山・広島・山口・愛媛・香川・徳島)
--

上記による実行委員会組織を構成する。事業実施に当たり必要な際は、実行委員会メンバーを追加する。

□事務局体制

JTB 中国四国 交流創造事業部内 瀬戸内プロジェクト事務局

〒730-0031 広島市中区紙屋町 2-2-2

TEL082-249-7161 FAX082-542-5011

事務局長 浅谷 聡(瀬戸内プロジェクト事務局長)

事務局 中島 一晃(交流創造事業部)

藤井亜由香 (㈱パソナ派遣)

小神田隆史 (交流創造事業部)

大瀬戸美樹 (交流創造事業部)

□規約

瀬戸内海の日アート・体験プログラム実行委員会規約

(名称)

第1条 本会は、瀬戸内海の日アート・体験プログラム実行委員会（以下、「委員会」と称する。

(目的)

第2条 委員会は、アートクルーズ、体験クルーズ等を通じた、瀬戸内海に触れ、感じられるプログラム等を実施することにより、瀬戸内に対する好奇心を喚起するとともに、瀬戸内広域周遊のきっかけづくりを行うこと等で瀬戸内のブランド化を図ることを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、会長、副会長、委員、監事等をもって組織する。

2 会長は、中国旅客船協会会長をもって充てる。

3 副会長は、四国旅客船協会会長をもって充てる。

4 委員は、関係機関及び関係団体の構成員をもって充てる。

5 監事は、日本旅行業協会中国四国事務局長をもって充てる。

6 委員会に顧問を置くことができる。

(委員等の任期)

第4条 委員等の任期は1年とする。

但し、会員の3分の2以上の同意を得られた場合は継続(3回迄)を可能とする。

(会長及び副会長等の職務)

第5条 会長は、委員会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、必要があるときは会長の職を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議(以下、「会議」)は、会長が招集する。

2 会議の議長は、会長をもって充てる。

(事務局等)

第7条 委員会の事務局は、(株)JTB中国四国 交流創造事業部内に設置する。

(経費)

第8条 委員会の経費は、参加費、補助金、寄付金、その他の収入をもって充てる。

(会計年度)

第9条 委員会の会計年度は、4月1日から翌年3月31日までとする。

(その他)

第10条 この設置要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、会長が別に定める。

附 則

この設置要綱は、平成27年4月24日から施行する。

イ・実行委員会の目的

瀬戸内海は太古より海で繋がれ、歴史に名を遺す海の道である。海路の復権は多くの経済的な実りをもたらし、人流を促すことで住む人、訪れる人に新たな知的好奇心を喚起する。国内外に対して目的地としての認知度不足が指摘される瀬戸内7県(兵庫・岡山・広島・山口・徳島・香川・愛媛)を事業エリアとする旅客船協会、旅行会社、自治体が連携し、地域内を往き来する交流人口の拡大とプログラム開発による訪問客の満足度向上に寄与する。また、日本財団のサポートプログラムを活用し、アートクルーズ、体験クルーズ等を通じた、瀬戸内海に触れ、感じられるプログラム等を実施することにより、次世代の子供たちが海を通して学び、共生を図ることを目的とする。

ウ・実行委員会の目標

「本事業の実施によって達成したい状態」

クルーズ船の運航により瀬戸内のアート(歴史資産、歴史建造物、伝統芸能)に触れる機会を創出、また、新たな航路を試験的に運航する事により、新ルート形成、旅行会社への新商品造成を働きかけることとする。

瀬戸内の体験プログラムについては瀬戸内海を楽しむ重要なファクターとして広域連携で事業者紹介、参加への動機づけ、海との触れ合い機会を増やすことを目標とし、隣接する他地域事業者への連携を促します。

フォーラムは、瀬戸内での「海の日」を力強く訴求し、地域に対しメッセージを伝える場として各地域持ち回りにて海に関わる事業者、一般参加の聴講者、地域のメディア協力のもと開催する。

「それを達成することで期待できる効果」

2020年東京+1(地方)に向け、目的地としての選択肢を瀬戸内へ。交流人口の拡大を実現する。テーマ発信による海の大切さや重要性を効果的に認識させる。

「本事業を次にどう活かすか」

2016年瀬戸内国際芸術祭においての迎え入れ意識の醸成、瀬戸内に暮らすことの誇りを感じてもらおうと同時にシンポジウム参加により、身近に海を想い、親しむ環境作りに貢献する。

エ・事業内容

瀬戸内が有するアート資産やテーマ性の高いプロモーション(食、スポーツ、歴史)への取組みを繋ぎ、発信し、来訪者が体験出来る事業開発を進め、瀬戸内特有の「海との共生」を深く参加者に意識付け、未来に向けた海への気付きプログラムとした。

1. 瀬戸内・海でつながるシンポジウムの開催

(1)時期:2016年7月24日(日)夏休み 周防大島と海とのつながりを学ぼう

(2)場所:周防大島 サンシャインサザンセット-山口県

(3)参加者:135名

(4)内容:

a. 自治体連携による海でつながる講演会(ホクレア号クルー内田氏招聘)

b. 海とのつながりシンポジウム(夢を描こうプログラム)

c. 周防大島、せとうち海の恵みプログラム(周防大島町教育委員会後援)

2. アートクルーズ SETOUCHI の実施

(1)時期:2016年7月18日~8月20日にて6ツアー募集

※5 自治体連携クルーズ 10/30-11/1 (瀬戸内、福山、高松、三豊、新居浜) 各市

(2) 発地: 防府、松山、姫路、徳島、広島、高松

(3) 参加者: 計 241 名 (実績) ※募集定員 400 名

(4) 内容:

a. 各地発のテーマ型チャータークルーズもしくはバス併用 (定期船利用) 体験ツアー
発地域の主催旅行会社による募集 (5~6 月)、催行 (7~8 月)、募集チラシによる広報実施

目的: 瀬戸内が有するアートや体験 (食、スポーツ、歴史) を切口に「海との共生」をテーマとした新たな旅行商品を瀬戸内海各地で造成、企画募集を実施する事により広く瀬戸内の様々な側面を広報、参加者は身近に体験する。また、ツアー参加者へのアンケートにより課題調査、考察資料とした。

目標: 瀬戸内が有するアートや体験 (食、スポーツ、歴史) による海との触れ合い、学びの場をシンポジウム、モニターツアー催行にて提供。瀬戸内海を多様なテーマから楽しむプログラム開発により海に生きる圏域の事業者連携、自治体との協働を通じて効果の最大化を図った。

事業目標の達成状況:

1. 目標達成状況

- ・集客実績: シンポジウム 一般聴講200名目標に対して135名(目標比68%) 7/24日(日)
アートクルーズ 集客総合計400名目標に対して241名(〃60.3%)
7/18~8/20日(夏休みの土・日催行)

■シンポジウム:

- ・ホクレア号など今まで耳にしない言葉を聞き、そして内田さんの話も聞いて、ホクレア号の歴史、名前の由来など分かってとても勉強になった。ホクレア号は普通のカヌーにあるものがほとんどないにも関わらず、日本や世界各地を回るのはとてもすごいなあと思った。(小学生)
- ・“スターナビゲーション”という言葉をはじめて聞きました。自然を相手に仕事される方は本当に幸せではないのでしょうか。(主婦)
- ・夢を持つことの大切さ、それを実現させる為努力、行動すること、自分次第で夢を実現できることを教わりました。(主婦)
- ・自分の将来を考える時に参考になるような話を聞いてよかった。(中・高校生)
- ・将来の夢を考えてみようと思った。(中・高校生)

■アートクルーズ：

- ・親子（祖母、孫）とのとても楽しい貴重な思い出ができました。ちょうどいい行程と内容で心身ともにジャストフィットでした。お疲れ様でした。ありがとうございました。
- ・出羽島で友達とハイキングをして、出羽島ってどんなところなのかなと思っていたけど、きつい階段を上ったあとの景色は最高にキレイだったです。出羽島の良さに気付きました。（お子様・女性）
- ・楽しい一日を過ごすことができました。船とバスの旅よかったです。昼食美味しかったです。天気も良く、ラビットランド・塩・ドルフィン十分楽しめました。（主婦）
- ・普段海の見えない大阪の内部にいます。たまには海へ出なくちゃ、と思いました。海の幸にこんなにありがたいと思ったのは、間近に舟で漁へ出る漁師さんを見たからです。心から命にありがたいと思いました。（女性）

2. 事業実施により得られた成果

・シンポジウムについて

<親子で参加しよう！夏休み海とのつながりを学ぼう>

周防大島町、周防大島町教育委員会、観光協会、せとうち観光推進機構を後援に7/24日、主に地域の小学生を持つ保護者の方、徳山市内発の子どもプログラム参加者、計135名がサンシャインサザンセットにて講演会、ビーチクリーン大会、食育パネルと一日を海とのつながりを考える機会とした。多くの参加者より子どもに聞かせ、一緒に考える事で大変ためになったとのアンケートを受け取り、一定の成果を得るに至る。地域の協力を行政、学校、事業者と多岐にわたる面々と連携も出来た。

・アートクルーズは瀬戸内エリア各地の旅行会社6社（西日本観光、瀬戸内海汽船トラベルサービス、愛媛新聞旅行社、JTB高松、JTB姫路、JTB徳島）の主催により各地にて募集実施した。瀬戸内のアート（歴史資産、建造物、伝統芸能）にスポットを当て、海を中心としたテーマ性のある旅行を楽しみ学ぶ場を提供。旅行会社が運営主体となることで、旅行傷害保険内容や行程説明、入金管理等総合的に安全を担保し、参加者の信頼を得ながらモニタリングのアンケート集約、分析をする事が出来た。

3. 成功や失敗の要因

- ・山口放送（K R Y さわやかモーニング）ニュース放映（7/24日周防大島シンポジウム取材分）山口放送より8/9日（火）5：51～6：03紹介
- ・計画の尾道発ツアーは、依頼先の尾道観光協会が夏シーズン～秋期取材対応（猫の道、しまなみサイクリング等）にて多忙及び離島の受地整備による見学許可が遅れツアー中

止になる。

- ・アートクルーズの催行率を高める仕掛け（関係者連携、地域事業者への主催依頼、自治体連携、プレス広報により各地発にて実施したが、満席での催行は広島、徳山発に留まった。連携先を増やしたり、組織へのアプローチを多く仕掛ける事が必要との反省。

事業成果物：

- 報告書・ ツアー募集チラシ（各 1.000 枚）※愛媛新聞旅行社：新聞出稿のみ（募集）
- ・シンポジウム資料・告知チラシ（シンポジウム 3.000 枚）・アンケート結果